



福井大学教育学部附属  
義務教育学校

No.06

平成30年12月7日

# 学校だより

## 第1回教育研究集会

後期課程 副校長 牧田 秀昭

11月30日に、県内外（国内外）から600名を超える参観者が来校する中、義務教育学校として第1回教育研究集会を開催することができました。育友会の皆様には、受付や書籍販売、弁当引き渡し、来賓接待、駐車場整理、荷物預かり、誘導等のボランティアを引き受けていただき、大変助かりました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

前期課程と後期課程が文字通り1つの学校になって開催した今回の教育研究集会では、公開授業だけでなく、子どもの活動を北体育館で公開することができました。前期課程では、1年生の「がっこうおたからたんけんたい」というプロジェクト学習を、入学してから現在までの活動について劇仕立てで発表しました。かわいい姿に涙ぐむ参観者もいたようです。5年生は「F(Fukui) F(Fuzoku) 発信プロジェクト」として、まず福井県のよさを調査して発信する活動のあらましをステージ発表し、後半は、出身地の違いを生かして、8つのブースに分かれ、出身地の「まつり」や特産物等について調査したことを基に、よりよい地域になるよう提案したいことを映像やポスターを使ってプレゼンテーションしました。後期課程では、「学びをつなぐ、わたしたちの協働探究」というテーマで、生徒主体のチームFLIA

が中心となり、10項目のポスターセッションを行いました。各学年の学年プロジェクトだけでなく、生徒会執行部や体育祭実行委員会、音楽委員会、科学部、シンガポール研修など多岐にわたる内容で、参観者からの質問にも的確に答えていました。さすがいずれも立候補して出てきた発表だけのことはありました。また、全体会冒頭では、「Future We Want なぜ学ぶどう学ぶ」というテーマで、前期・後期各2名の子どもを、後期課程の生徒がコーディネートするシンポジウムを公開しました。プロジェクト型学習を通して培われたリーダーシップやコミュニケーション力について語り、



後期課程の生徒によるプレゼンテーション

将来どんなことに生かしたいか表明する時間となって、会場からは感嘆の声があがりました。「Future We Want」については、会場入り口に、立候補した数名の同様な思いがビデオとして流れるとともに、1人ずつの思いがポスターに表明されて展示されました。全体会では、3名のゲストから、本校の教育がまさにこれから求められている取組として、国際的な価値付けがなされました。

育友会や福井大学をはじめ多くの関心ある教育関係者の方々に支えられ、未来に向けた教育の在り方を子どもたちが提案する公開となりました。そして、同日、東洋館出版社より「福井発プロジェクト型学習～未来を創る子どもたち～」という刊行本を出版することができました。子どもたちの生の声が多く掲載されております。ご家庭でもぜひ購入してお読みいただけたら幸いです。

今後とも本校の教育活動にご支援、ご協力よろしくお願いたします。

**編集後記** 記念すべき義務教育学校としての第1回研究集会。子どもたちの生き生きと活躍する姿に、これからの教育のあり方を肌で感じた参観者も多かったと思います。今後も、本校の教育や子どもたちの姿を福井県内外だけでなく、世界に向けて発信して参ります。

—後期課程教頭—